

株式会社にじいろキャンバスが第15回キッズデザイン賞を受賞！

(インキピット)

incipit保育園 ～主体的な意欲や姿勢を育む環境デザイン～



にじいろキャンバス

子どもたちの『主体性』『意欲』を育むために、
「子ども」「保護者」「保育者」が迷いや違和感を感じにくい環境づくり

子どもたちの「自立心」を育むことを大切に保育を行う、株式会社にじいろキャンバスは、同社の2園目となる「incipit(インキピット)保育園」設立プロジェクトとして、子どもたちの主体性や意欲の育みに着目し、それを阻害する要因を排除した環境づくりに取り組みました。その最大の挑戦は「大人の指示を最大限減らし、子どもたちが自ら活動できる環境を構築すること」。この子どもたちの学びや成長、経験の機会を保障する環境デザインが評価を受け、同賞を受賞いたしました。

主体性の育みを妨げる要因

大人の都合や事情
大人同士のすれ違い▼
三者に生じる「迷い」「違和感」▼
主体性の育みを阻害主体性を育むために
アプローチした3つの課題

- ① 関係者間の認識のズレ
- ② 不本意な待ち時間や、 unnecessary 指示の削減
- ③ 空間の柔軟性

すべてのユーザーが違和感なく過ごせる環境づくり

本プロジェクトの課題設定とゴール設定

保育における“3つの環境要因”ヒト・モノ・時間
設計プロセスを通じて、コンセプトと意図を共有しあう

本プロジェクトは、保育園の建築空間のみならず、保育の重要な環境要因である「ヒト・モノ・時間」に着目。設計プロセスに関係者(子ども、保護者、保育者)を巻き込むことで、それぞれのユーザー体験と居心地のよさをすり合わせ、共通認識を醸成しました。

保護者、保育者、設計者を交えた環境デザインWS(左)
子どもたちはぬりえなどを通じて室内イメージを表現(右)

環境デザインプロジェクトを通じて生まれた“環境”と成果

上記のプロセスを通じて、動線や直感性に配慮した、“人中心”の空間が生まれ、人と時間がそこで過ごす人々のありかたを保障する環境が生まれました。子ども、保護者、保育者それぞれにストレスが生まれにくく、子どもたちは自らの興味関心を存分に発揮しています。



関係者が空間の意図を理解し、可変性を存分に活用

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社にじいろキャンバス 代表取締役 小林祐輔

千葉県市川市行徳駅前1-24-1 TEL:047-307-3622

公式HP:<https://nijirocanvas216.pro/> (右記QRコードからご覧いただけます)